

森の通信

宮崎県総合博物館だより

第 21 号

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

発行日/平成6年12月20日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL (0985) 24-2071

第28回

現代美術選抜展



「信州白馬ジャンプ競技場」田中春弥(日展)

近年、わが国で開催される美術展覧会には、数多くのすぐれた作品が発表され、年ごとに人々の美術への関心と期待は高まっています。

文化庁では、毎年、国内各美術団体が実施した展覧会での受賞作品と文化庁買い上げ作品を各地に巡回展示し人々に鑑賞の機会を提供しています。

本展覧会では、平成5年度に開催された16美術団体展から選ばれた日本画、洋画、版画および彫刻など71点に文化庁買い上げ作品7点を加え、合計78点を展示し、現代日本美術の動向を広く県民に紹介します。(高橋)

内 容 日本画20点、洋画33点、版画8点、彫刻17点の78作家78点

出品団体 日展、日本美術院、二科会、二紀会、国画会、

創画会、春陽会、独立美術協会、新制作協会、一陽会、行動美術協会、主体美術協会、自由美術協会、美術文化協会、モダンアート協会、日本版画協会の16団体

会 期 平成7年1月20日(金)～2月5日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日＝1月23日・30日

入館料
(消費税込み)

区 分	当 日	団 体	割 引
大 人	500円	350円	400円
高・大生	300円	200円	200円
小・中生	200円	100円	100円

団体は20名以上

大崩山の昆虫類

宮崎県の北部、大分県境の近くに伐採を免れた原生林の山塊が大崩山です。大部分が花崗岩で風化・浸食しているため、独特の岩山の景観を呈しています。最頂部は標高1,600mを超え、植生は山麓が照葉樹林、1,000m以上がブナ林となります。

大崩山でこれまで報告されている昆虫類で代表的な種類を紹介します。

ミドリシジミの仲間

チョウの中で「飛ぶ宝石」とも言われ、色彩に富み大変美しいミドリシジミ類は、ここだけで10種が生息しています。200～400mの標高では、アカシジミやミズイロオナガシジミ、500～600mは、キリシマミドリシジミ、600～1,000mは、メスアカミドリシジミ、それ以上になるとアイノミドリシジミやフジミドリシジミなどが登場し、高度によりすむ場所を変えています。その中でも、岩山に適したのがウラクロシジミです。名前のお通り、裏面が黒っぽいのですが、表は銀白色をしています。幼虫は、マンサクという植物の新芽を食べますが、主として標高1,000m以上の絶壁に生えているものを利用しています。

甲虫の仲間

ここでは、ブナ帯に生息している種類を紹介します。

クロツヤムシは、クワガタムシに近縁な種で、広葉樹などの朽ち木の中で発見されます。九州・四国・本州の高地にすんでおり、かつてこれらが陸続きだった証の昆虫として知られています。ルリクワガタは、体長10mm余りの小型のクワガタムシです。この仲間は、国内で4種が確認されていますが、大崩山塊では、本種とニセコルリクワガタの2種がいます。成虫は、5月頃ブナなどの新芽に飛来します。サワダマメゲンゴロウは、最近宮崎県では初めて、大崩山で発見された種です。溪流の石の間や、溜まりになっているところで生活しています。

その他

エゾハルゼミは、ブナやミズナラのはえる標高800m以上で発生します。6月に入ると雄は、「ミョウケン、ミョウケン、ケケケケ」と独特の声で鳴きはじめる、遠くからでも確認することができます。(岩崎)

〔展示期間：平成7年2月9日(木)～〕



ブナを食草とするフジミドリシジミ

郷土の玩具

常設展示室民俗部門のコーナーでは、現在、「郷土の玩具」の展示を行っています。

私たちのまわりには、いろいろな種類の玩具が数多くありますが、大きくわけて、子供の遊びの対象として作られたものと、信仰に關した縁起物とがあります。

遊びと結びついた玩具は、木や草など季節と関わりのある自然物を利用したものから、年中行事に用いられる手作りのものまで幅広く見られます。

一方、信仰と関係の深い玩具は、祭りに使用される楽器や面などから起こったものと、祭日や縁日に見られる奉納品などから起こったものがあります。

宮崎県を代表する郷土玩具は、そのほとんどに、寺社との関わりを見ることができます。

本展示では、縁起物として、東諸県郡国富町法華岳薬師と宮崎郡佐土原町久峰観音の二種類の「うずら車」、宮崎市住吉神社の「はじき猿」、青島神社の「青島びな」を紹介しています。

また、節句物として、延岡市の「のぼり猿」、宮崎郡佐土原町の「神代ごま」、「佐土原人形」、その他県内各地に伝えられた「糸まり」、「こま」等もあわせて紹介しています。(地村)

〔展示期間：平成6年11月9日(木)～平成7年3月31日(金)〕

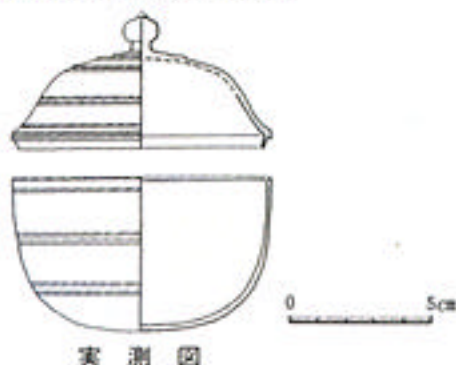


展示のようす

銅 鉢 (どうわん) —— 新寄贈資料



池内横穴墓11号出土の銅鉢



実測図

両手のひらに、すっぽり入るこの若竹色の球形の器は供物を入れるための容器で銅鉢といえます。池内横穴墓11号(宮崎市)から昭和55年に発見されました。

この銅鉢は、宝珠形のつまみのある蓋と半球鉢形の身からなり、鑄造した銅をろくろで削りだして仕上げられた精巧なもので7世紀後半の時期と考えられます。厚さ1.5mmほどの薄い蓋や身からは当時の高度な技術をかいま見ることができます。古墳出土の銅鉢は全国で約90例が知られていますが関東地方からの出土が多く、九州地方では数少ない例といえます。

宮崎県内では、最近、孤塚古墳(日南市)の横穴式石室から2点が出土し、合わせて3点となりました。池内横穴墓の例は、横穴墓から出土したためずらしいものというほかに、本県における仏教の広がりをも具体的に示す最初の資料としても大きな価値をもつものといえます。

なお、この銅鉢は昭和57年以来曾我部長良氏から寄託されていたものですが、今年10月にご好意により寄贈いただいたものです。(近藤)

エントランスホールに生きたゲンゴロウや小魚登場

水の中の身近な生き物たち

エントランスホールに水そうを2つ置きました。

小川や池にいる生き物を生きたまま展示しようとするもので、大淀川などの川と周辺の池から採集してきました。水そうには、次のような生き物が展示してあります。

コガタノゲンゴロウ(ゲンゴロウ科)

水のきれいな水生植物の豊富な池に生息しています。かつては、いたるところで見られた種類ですが、近年著しく減りました。泳ぎがうまく、水中に適した進化をとげた昆虫です。

タイリクバラタナゴ(コイ科)

日本へは、1942年頃移入された種類で、各地の小川で繁殖している帰化動物です。メスは、カラスガイ、イシガイなどの貝のえらに産卵します。

タカハヤ(コイ科)

水のきれいな溪流部から小川に多く、宮崎県では、アブラメと呼ばれている種類です。体長は、7~8cmくらいになります。

メダカ(メダカ科)

宮崎県内に普通に見られたなじみのある種類ですが、農業や河川改修の影響で生息地がかなり狭められています。また、カダヤシ(タツミノ・帰化動物)が、メダカの領域まで侵入し、追いやっています。



エントランスホールの水そう

ドジョウ(ドジョウ科)

体長10~18cmほどになります。水面で吸った空気は、腸で呼吸して肛門から出します。小川や池に生息しています。環境の変化で宮崎県でも極めて少なくなりました。

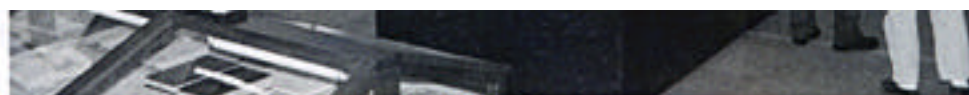
フナ(コイ科)

フナの種類には、キンブナ・ギンブナなどがありますが交雑種も多く外見からでの見分けはなかなかです。体長は15cmほどになります。

以上の他に、カワニナ・モノアラガイなどの貝類やモエビ・スジエビがいます。ドンコは体色を水そうの石に似せていますし、ヨシノボリは腹びれの吸盤でガラスにくっついています。ブルーギルやカルムチー(ライギョ)などの帰化動物もいます。(伊東)



看板



会場風景

1月から3月の催しもの

	1 月	2 月	3 月
◆特別展	1/20 現代美術選抜展 → 2/5		
◆コーナー展示			
自然史	草原にすむ生き物たち	2/5 → 2/9	大崩山の昆虫類
考古	木 簡		
歴史	宮崎の歴史をつくった人々 - 石井十次 -	1/29 → 2/7	宮崎の歴史をつくった人々 - 富松 良夫 -
民俗	郷土の玩具		
美術	瑛九リトグラフ展 → 1/16		
埋蔵文化財センター	三幸々野遺跡の調査 1/22 → 1/25	日向の国府・国分寺と下村窯跡群の調査	
西都原資料館	装身具		
	都 萬 焼	2/12 → 2/15	農耕用具

◆普及活動

- 博物館……森の学習会— 1/11「瑛九リトグラフ」
- 県民文化ホール……森の名画座— 3/11「チロヌップのきつね」
- 森のコンサート— 1/29「新春邦楽演奏会」 2/18「母と子のための音楽会」
- 埋蔵文化財センター……埋文講座— 1/28「日向の国府・国分寺と下村窯跡群の調査」
- 2/25「古墳時代の宮崎」 3/25「古代の宮崎」